

第14回 市民と市長のふれあいトーク
報告書（要点）

日時：令和3年6月23日（水）午後6時～8時

会場：市役所812会議室

テーマ：「まちの魅力を高め豊かな暮らしを支える産業の振興」

～コロナ禍における産業振興～

出席者：吉祥寺サンロード商店街振興組合、中央通り西祥会、武蔵境駅前商店街協同組合、株式会社リベスト、swivel&knot、株式会社マネジメントブレン、一般社団法人フラットデザイン、株式会社ネクストローカル、LIBERTE JAPON Co.,Ltd、有限会社おかし倶楽部、合同会社 Patiss、STUDIO4°C 各代表者計12名

傍聴者 1名

市長、市民部長、産業振興課長、経済対策調整担当課長、市民活動担当部長

1 開会

自己紹介

2 意見交換

(1) 暮らし地域応援券について

- ・（市長）武蔵野市暮らし地域応援券の特徴は、あえて紙で全市民に送付する点で、現在検証作業中。出店支援金の30万円、半年継続で更に30万円は継続予定である。
- ・ロックダウンして支援するという手も取れたのではないか。
- ・（市長）財政調整基金の中から効果を見ながら予算を使っている。暮らし地域応援券は9割の方に利用され、6.6億円の費用だった。ロックダウンでの支援よりも、生活しながら、経済活動をしながら日常生活を大事にしていきたい。
- ・（市長）文化会館利用料について、公共施設の利益は市の歳入になっているが、コロナ禍なので減免はしている。文化活動も必要なことと考えている。
- ・1回限りの補助よりも継続的に事業者と消費者のつながりも必要。
- ・（市長）やり方としては、市内の大型スーパーのクーポン券を参考にした。クーポンの換金については今回は3大メガバンクも加わってくれて、紙幣カウンターで数えられる点も良かった。検証で更に良くしたい。
- ・家族で考えて使えるのが良かった。商店街の課題はキャッシュレス化だが、アナログ的なものの良さもあると思う。
- ・もともとお店を市外で開いていたが、出身地である武蔵野市に戻った。暮らし地域応援券はホワイトデーの際に需要があった。
- ・送付されていることを知らない1人暮らしの高齢者などもいた。コロナワクチン接種券の送付でも同じことが起きる可能性があるため、予約が入っていない市民には再度申込書を送付している。「お節介心」が大切。
- ・市の情報に関して、実物（紙媒体）が良いのも分かるが、デジタルでやってほしい部

分もある。

- ・ A券とB券で4：6の設定は良かったが、もう少し地元還元されてほしかった。
- ・ (市長) 大手で使用できない券は使いにくいという意見もあったが、小さな店の支援という意味もあった。

(2) 武蔵野市の農業について

- ・ 武蔵野市は農業がチャームポイントで、街の魅力になると思う。地産地消が今後重要になってくる。
- ・ ブルーベリーで成蹊と事業を行っている例がある。成蹊大学の講義でまちの人に講師として来てもらい、企画から販売までを生徒が行った。キラリナで販売した。
- ・ 成蹊で養蜂をやった例もある。カレルチャペックで販売している。
- ・ ホップから産廃がたくさん出ており、年間1.5トンの出し殻が出てしまう。産廃を肥料化するために現在大学で研究をしてもらっている。
- ・ ごみピットバーにて、柚子の捨てられてしまう部分を使った廃ボール（ハイボール）などを提供した。
- ・ 『えんとつ町のプペル』作者の西野さんが広告塔として吉祥寺に来た。ごみピットバーと作品をうまく組み合わせて、商品コラボなどに参加したい。

(3) まちの魅力を発信するには

- ・ 武蔵野市の情報発信のために、一目で分かるような展示・案内や、プラットフォームのようなものがあれば更に良い。
- ・ 最近、富士通とアメリカ企業のコラボでレジのないお店ができた。これは便利だが、人と人とのつながりや地域をつなぐコミュニティも必要。
- ・ 企画と営業で確執が生まれることが度々ある。商品企画も大事だが、この人から買いたい、という気持ちでの購入もあるはず。
- ・ 地域密着を目指して、まちやまちに来る人を大事にしてくれる人に商売をしてもらいたい。ただ、武蔵野市は土地が高く、3か月で出てしまった人もいた。
- ・ 情報を知りたいと思ったときにどこから情報を得るべきなのか。まちに来てもらうために、受動的にも知り得る情報発信の仕方があると良い。
- ・ 小さいお店が多い中央地区も、発信力を高めるべきだと思う。商店会として何かできると良い。
- ・ 保育園の近くなどは、送り迎えにくる親御さんが買い物をすることが多い。
- ・ 保育園の周りでは迎えに行く時間まで、お店に滞在する親御さんがいる。最近「ライターママ」がいるそうで、記事を書いてもらうことが宣伝になる。
- ・ 2012年から武蔵境活性化委員会として、学生がフリーペーパーを作成している。お店の人の人柄や、「新しいお店ができた」よりも「このお店のこんなところが面白い」という情報が興味を持たれる。自身の身近な人からの情報は信じやすい傾向がある。
- ・ ビラ撒き、口コミは効果があると思う。生活に必要とされるものを一つでも、着実に

でも地元の人が商品を開発できたら良い。

- ・目黒の「さんま祭り」などもあるが、まずは行動を起こすことが大事。

(市長)

コロナ禍であっても、文化活動や経済活動をしながら日常生活を大事にしていきたい。
情報発信が課題である。プラットフォームを行政が後押しすることができると良い。
また、公園や公共施設を市が提供して武蔵野市で催し物を開き、市の魅力を発信する場を作れると良い。

3 閉会